

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490100035		
法人名	社会福祉法人自立共生会		
事業所名	グループホームくわなの宿		
所在地	三重県桑名市萱町39番地		
自己評価作成日	平成27年10月5日	評価結果市町提出日	平成27年12月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490100035-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 10 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

放課後児童健全育成事業を併設しており、学童期の子ども達、スタッフ、そして利用者様と3世代4世代の交流を行っています。法人理念”お年寄りの底力を活かそう”を実践するため、お年寄りの昔取った杵柄(おやつ作り、料理)を次の世代に教えていただいています。又、近所のスーパーへの買い出し、散歩ついでに防犯パトロール等を実施しています。地域の公園の清掃活動などの自治会活動への参加、オレンジカフェの実施など、地域の中で、地域住民として、その人らしい生活を送っていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ウエルネス医療クリニックを母体にしたウエルネスグループの社会福祉法人自立共生会が運営しているグループホームである。同一敷地内には学童保育施設があり、利用している児童との交流が盛んに行われ、グループホームの利用者及び家族からも喜ばれている。地元の「石取り祭り」や地区の防犯パトロールに利用者と共に職員も参加して交流がある。グループ全体の職員を対象に、本年から「新人事制度基本設計」に基づき、キャリアアッププログラムが実施されており、職員のスキルアップと事業所全体としての介護支援の質向上を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の新人研修やグループ内研修・ミーティング時や日々の業務の中で法人理念の”お年寄りの底力を活かす”を管理者・スタッフが確認し合い、実践につなげている。	事業所のスローガン「お年寄りの底力を活かす」事を実践する為に、「洗濯物たたみ」や「食事の準備」等を職員と共に行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当時より自治会に加入しており、今年度は自治会班長を務めている。地域住民の一員として地域の清掃活動や、お祭り等の行事に参加したり、事業所の行事や避難訓練にも近隣の住民への呼びかけをし、買い物・散歩パトロールの際の挨拶など日常的に交流している。	包括支援センターと共に「オレンジカフェ」を開催して、近隣の高齢者や児童、ボランティアと共に楽しみながら交流している。また、自治会に加入し、公園の掃除や近隣を散歩して日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	桑名市介護支援ボランティアの受け入れや、地域包括支援センターとオレンジカフェを共催したり、学童の子どもとの日常的な交流や、保護者に行事等に参加していただくことにより、地域の人々に認知症についての理解や支援の方法を発信し活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に桑名市地域介護課・南部地域包括支援センター・民生児童委員の方に参加していただき、様々な意見や提案をいただき、サービス向上に活かしている。	基本的には2カ月に一回、第三金曜日に市の地域介護課や包括支援センター、民生児童委員等の参加を得て開催している。災害時の備蓄の必要性についての助言を受け実施したり、津波や水害時に於ける事業所屋上の利用について助言を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に、利用者様の日常の暮らしぶりを写真を掲示しながら伝えたり、運営上不明なことなどがあれば相談したり、また市が開催する研修会に出席したりしながら、協力関係を築くようにしている。	市の地域介護課主催の研修会に参加して、介護報酬についての講義を受け交流したり、医師会主催の認知症についての講義に参加して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義を掲示し、身体拘束をしないケアをスタッフ全員が実践し、万が一そのようなケアが必要とされた場合は、記録に残し、少しでも無くせるように討議することになっている。	「身体拘束禁止マニュアル」に基づき、全職員対象の研修会を昨年11月に実施しており、身体拘束の弊害について話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修会に参加したり、資料等でスタッフの意識向上に努め、身体拘束ゼロへの取り組みを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループ内で地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修会を開き、参加できなかった職員には資料を配布して、周知し活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はあらかじめ日時を決め、十分な時間をとり、説明ができるように務めている。また、その際には利用者や家族が不安な点や疑問点を尋ねやすい和やかな雰囲気を作るように務めている。改定などについては、家族会で説明をさせてもらい、同意をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見、不満、苦情については、スタッフや管理者が申し送りノートや日々の申し送りで共有する他、月1回のカンファレンスでも話し合い解決を図っている。苦情受付担当者が対応するほか、事業所内に「ご意見箱」を設置している。	年二回の家族会が集まる「集い」を開催して意見や要望を聴き、ケア会議で話し合っている。また、毎月の請求書発送時には、それぞれの近況を書いた「くわなの宿便り」を送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見や提案が運営に反映できるように日頃から話しやすい雰囲気づくりに務めている。毎月の月間報告書で改善報告や提案を受け付けている。	事業所の「部門使命」に基づき、指定様式により重点項目を決め、職員一人ひとりの取り組み内容について管理者と話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	これまでのキャリアパスに加え、グループ全体で、外部のコンサルタントのアドバイスを受けながら、新しい等級定義をグループ内の職員で討議し、作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に加え、認知症介護実践者研修や認知症介護リーダー研修などスタッフのキャリアや能力に応じた研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会に参加し、他施設とのネットワークづくりを図っている。また、管理者やスタッフが各種研修に参加することで同業者と交流する機会を作ってサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階から、本人の気持ちに耳を傾けて、困っていることや不安なこと、嬉しいことや嫌なことなどを職員全員で把握し、本人が安心できる環境、信頼関係を作れるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際の面談時から、家族にとって不安に感じること、困っていることや、要望等に耳を傾け本人・家族ともに支えていける関係づくりを築くように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の面談時からニーズに合わせた支援をカンファや申し送り等で検討し、提供できるように務めている。また、月1回、グループ内でサービス調整会議を開いており、適正なサービスが受けられるように調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や状態をアセスメントし、個々にあった役割を担っていただいている。調理の際の工夫を教えてもらったり、土地の慣習や歴史を教えてもらったりしながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回、家族会での食事会や、夏祭りなどの行事に参加していただき絆を深めている。毎月の様子を「くわなの宿だより」や来訪時などでお伝えすることで、家族との関係が築けるように務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には使い慣れた生活用品や大事な人の写真があり、入居時にも馴染みの品を持ってきてもらえるようお願いしている。また、利用者馴染みの方には、リビングや居室でゆっくりと会話をしていただけるように支援に努めている。	親戚の方や近隣の高齢者が訪れたり、同一敷地内の学童保育施設に通っている子供と馴染みになって関係の継続が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係を保てるように、個々の状態、相性を見ながら席の配置をしたり、生活リハや日常生活・行事を共に取り組むことでお互いに感謝されるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などにより退居された後もコミュニケーションの維持に努め、必要に応じて本人、家族の状態や今後のサービス利用における相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを図り、一人ひとりの思いや希望を聞かせていただけるような話しやすい雰囲気づくりに努めている。センター方式を活用したり、入浴時のなにげない言葉を受け止めるように努力している。	センター方式の一部を利用して、出来る事好きな事を職員で共有し、希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、本人、家族、担当ケアマネ等を通して今までの暮らしぶり、趣味や特技、サービス利用の経過などを伺い、センター方式のシートの使用や、その閲覧を通して、生活歴の把握や趣味、特技、馴染みの物、本人が大切に思っていることなどを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファや個人記録、センター方式などを通して一日の過ごし方や思い、状態をスタッフ間で把握できるようにしている。心身状態については、療養シート・往診結果シートなどに記入し、情報を共有し、現状を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケアカンファで参加可能な家族も含め、スタッフが状態の把握や課題、ケアの見直しなどを話し合い、現状に応じた介護計画の作成に努めている。	介護計画書の見直しは基本的に6ヶ月毎となっており、業務日誌の内容やケア会議で話し合っている。尚、支援内容の実施状況を項目毎にチェックするモニタリング表は確認出来なかった。	支援内容の確認が項目毎に出来るモニタリング表を作成して、期間を設定して実施し、計画・実施・確認・評価、次回への反映が出来る仕組みを検討して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・業務日誌・申し送りノートなどを通してスタッフでケアの工夫・効果を共有している。また、ヒヤリハットもカンファ・申し送りで共有している。家族や協力医療機関の医師、薬剤師と連携し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に応じ、必要な物品を購入している。月に4~5回の医師の往診の他、必要時提携医療機関への受診を行っている。併設している学童保育との子どもとの交流、グループ内の行事への参加等、柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	バイオリン演奏や手品、健康漫談、紙芝居などのボランティアをお願いしている。自治会の公園清掃や地域の寺社の祭への参加など、地域の中で役割を担いながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回、主治医の脳外科医、整形外科、消火器内科の往診を実施している。歯科・眼科・皮膚科などは必要時には受診の支援を行っている。初診に関しては、主治医に紹介状を依頼し、受診時に持参している。	グループ内のウエルネス医療クリニックの医師が主治医として週一回の往診を全員に実施している。歯科、眼科等、他のかかりつけ医の受診は、基本的に家族対応となっているが、家族の都合により事業所で同行して支援する時もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしているウエルネス医療クリニックの看護師に日常的に健康状態の変化など電話相談ができ、また週に1回健康チェックに来てもらっている。又、施設にも看護師が週4日勤務しており、利用者が看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を医療機関に伝え連携をしている。又、本人、家族の希望を聞き、早期に退院できるよう、医療機関との情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化に伴い、本院・家族・医師と連絡相談しながら支援を行っている。常時医療的管理下での支援が必要な場合は協力医療機関と連携をとって、本人、家族、医師と共にその後の方針を話し合っている。情報と方針は職員間で共有し、支援に取り組んでいる。	契約時に、「緊急時、状態が悪化した場合についての対応」について、文書で明示して説明している。重度化や終末期を迎えた時には、その後の方針について主治医、家族と事業所が話し合い、その内容を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、グループ内研修で心肺蘇生、緊急の対応を実施しており、職員が参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に来てもらい利用者・地域の人と共に消防(避難)訓練を行っている。また地震やそれに伴う津波を想定した訓練を行い、夜間の地震の際、どのような行動をとるかなどといった話し合いを持っている。緊急時、近隣の寺院や住民への協力要請をしている。	年二回の訓練で消火や通報、避難訓練を実施している。津波や水害の発生時には、事業所の屋上への避難を決めており、近隣の方の避難場所として提供する事を自治会と話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応に関しては勉強会、研修会を開催したり、資料を通して利用者の誇りやプライバシー保護への意識を持てる様にしている。記録に関しては、イニシャル等を使用し人物の特定がしにくいように心掛けている。	グループ全体としての「プライバシー確保」についての研修が実施されている。日常的には、「トイレ」使用時の出入りロドアの扱い等について職員間で話し合い、プライバシー尊重について共有して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや、今後の希望について表現しやすい様に傾聴する姿勢を持ち自己決定出来る様に働きかけてる。又、利用者の希望が実現に向う様にカンファレンスで話し合ったり、申し送りノート等で情報を皆で共有するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのよう過ごされていたか、その都度の声掛けを通して一人一人の思いをお聞きするようにし、意志決定の尊重に努めている。又、体調も考慮し一人一人のペースを大切にした支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度散髪ボランティアに来てもらっており本人の希望をお聞きしている。又、服装などは出来るだけ本人と相談して選ぶように支援しており、食事会等の外出時はお化粧品等洒落をして外出出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえから配膳、食後の片付けなど利用者の能力に応じ力を発揮していたでている。	グループ内の管理栄養士が作成した献立に基づき職員が交替で作っており、敷地内の畑で採れた野菜を利用する時もある。また、利用者の誕生日には要望を聴きながら特別食で楽しみの工夫をしたり、職員と共に「おやつ作り」をして楽しむ機会としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養に関しては、管理栄養士や栄養士がメニューを作成している。食事、水分摂取において必要時は協力医療機関の医師と連携している。又、食事形態を状況において変更し一人ひとりの状態・力・習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の嚥下体操の他、声掛けや誘導により一人ひとりの状態や力に応じた歯磨き等の口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の状況、パターンを把握し、職員間で情報を共有し、一人ひとりに合わせた支援をしている。その際、出来るだけトイレで排泄してもらえようように声掛け、誘導を行い自立に向けた支援をしている。	リハビリパンツ・パット使用の方も声掛けやトイレ誘導を行ない、個々に応じて出来るだけ自立した排泄が出来る様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、一人ひとりの利用者の排便パターンを把握している。個々に応じた運動(散歩や体操等)・水分摂取・食物繊維の多いものの摂取等管理栄養士や看護師とも連携し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同性介助を望まれる方には入浴介助を交代したり、出来るだけ本人の気持ちを尊重し、気持ち良く入浴して頂けるように務めている。又、一人ひとり入浴したい時間を把握し、個々にそった支援をしている。	介護風呂の浴槽が設置され、車椅子利用の方の対応も可能で利用し易く、利用者から喜ばれている。入浴の機会は、一対一で対話出来る事もあり、「くつろいだ気分」で気軽に話し合える様に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせて、居室やリクライニングチェアなどへ誘導し休んで頂けるように支援している。又、夜間など眠れない時には、安心できる声掛けをして安眠への支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個々に保存し、いつでも確認できるようにしている。服薬の支援や症状の変化については個人記録に残し、職員が共有できるようにしている。又、必要時には、看護師や薬剤師に確認したり、主治医に状態を連絡し適切な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、生活歴や馴染みのものなどの把握に努め、日々の生活に反映できるように心掛けている。また、現在の本人の楽しみなども聞かせていただき記録に残して情報を共有し、一人ひとりの利用者が喜びや張りのある生活ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に添えるように努め、天気の良い日には散歩や外気浴、買い物などの外出支援を実施している。必要時には職員体制を増やしたり、家族にも声を掛けさせていただく等の働きかけを行っており、ご希望により法事や墓参りにも行っていただいている。	日常的には近くの公園に出掛けており、季節の花見に行く時もある。また、買い物や外食には希望により家族と行く機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物や食材の買い出しなどの買い物の際、支払いなどをしていただけるように職員が付いて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人と連絡が取れるように希望時には電話や手紙のやり取りができるように支援している。本人の希望により宛先の代筆、相手先の電話番号の代押しなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間でのTV音量や室温・光などは気をつけて設定しており、希望時はその都度安心していただけるように対応している。温度計、湿度計を置き、適切な環境をつくるよう心がけている。	食堂兼居間はクッションフロアで床暖房となっている。廊下は広く、非常口へはスロープにして工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファが設置してあり、気の合った利用者同士が過ごせる状態にある。利用者が、居心地の良いところへ移動して使用する事も可能であり、それぞれの思い思いの場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた小物などを自宅より持ってきてもらい、使い慣れた物を使用して頂くことで安心した生活を送っていただけるようにしている。必要時には本人の意向をお聞きし、配置を換えるなど居心地良く過ごせるよう支援している。	居室にはベッドやエアコンが事業所として設置してあり、それぞれの好みの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせる雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要などところに手すりを設置し、見守り移動が出来るようにしている。居室環境も利用者の身体状況に応じてベッドの高さや衣装ケースなどを利用者と相談して設置し、自立した生活が送れるよう工夫している。		